

授業科目区分	授業科目名	授業方法	単位	時間	関連の深い授業科目
専門	バイオメカニクス	講義	2	30	解剖学 スポーツ生理学
学科・学年	担当教員名	科目関連 実務経歴	実務経歴・分野・授業科目との関連等		
AT学科 2年	山田 悟史	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
授業目標 *詳細な目標は、授業の冒頭で提示					
<p>身体運動のメカニクスを理解し、パフォーマンスの向上や障害予防のための動作改善につなげる。</p>					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>1年時に学習した運動と力学の基本を踏まえ、より個別的な事象を取り上げて、身体運動と力学の関係について講義し、より具体的、個別的な現象に関する理解力と対応力を養うことを目指す。スポーツ動作における力学現象を理解するだけでなく、障害予防や競技力向上に有効なアスレティックトレーニングの方法について、競技特性を踏まえた上で指導できるよう、実践を踏まえた上で講義および演習を行う。アスレティックトレーナーにとって、スポーツ動作に生じる力学現象を本質的に理解する思考能力と、自分の意図を的確に他者に伝える言語能力は重要である。また、現実のスポーツ指導の現場においては、知識の量よりも知識の活かし方が重要となる場合が多い。このことを踏まえ、教員と学生との対話的授業を重視し、学生の創造力と発想力を豊かにするための授業を進める予定である。</p>					
教科書・参考書					
<p>『バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎—』(金子公宥、福永哲夫 編、杏林書院) 『スポーツ・バイオメカニクス入門 絵で見る講義ノート』(金子公宥、杏林書院) 『スポーツ・バイオメカニクス20講』(阿江通良他、朝倉書院)</p>					
受講時留意点、その他					
<p>【 全科目受講時共通事項 】※詳細は学生便覧受講における遵守事項参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 病気その他止むを得ない事由以外での欠席はしないこと。 ● 授業開始5分前には所定教室で待機し、指定された席で授業を受講すること。 ● 授業中は私語、および授業内容に関係のない行為は自粛すること。 ● 授業中の電子機器の使用は禁止する。但し、担当教員から許可を得た場合はこの限りではない。 ● 当番は授業前後の準備、整理を行うこと。教室、実習室の整理整頓、採光、換気、節電に努めること。 <p>※注意 授業開始時間後の入室は職員室にて「授業開始後入室における聴講申請書」を記入し、記入した用紙を担当講師に手渡して下さい。授業の聴講は許可しますが、出席簿は「欠席」扱いとなります。(公共交通機関遅延により遅延証明書がある場合のみ出席とみなします)</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合 (%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験					
その他	100	出席状況やレポート等で総合的に評価する			
(合計)	100				

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
1		身体運動における 主観と客観の捉え方		/	山田
2		運動体としての骨格と関節の構造		/	山田
3		筋のバイオメカニクスの特性について		/	山田
4		運動制御のしくみ		/	山田
5		歩動作のバイオメカニクス		/	山田
6		走動作のバイオメカニクス		/	山田
7		跳動作のバイオメカニクス		/	山田
8		投動作・蹴動作のバイオメカニクス		/	山田
9		体操のバイオメカニクス		/	山田
10		水泳のバイオメカニクス		/	山田

回数	開講 予定日	テーマ、内容、キーワード 教科書、配布資料	授業日誌	開講日	担当教員 (備考)
11		クローズドスキルの特性		/	山田
12		力みのバイオメカニクス		/	山田
13		バイオメカニクスを 競技力向上に活かす		/	山田
14		バイオメカニクスを応用した トレーニング方法を考える		/	山田
15		復習と総括		/	山田
16				/	
17				/	
18				/	
19				/	
20				/	